



林道整備の必要性等について意見交換

岩地帯となっており、裸地化した箇所においては降雨の度に土砂が流出する脆弱な地質となっています。また、この林道沿線は樹齢百年前後の人工林ヒノキを有し、間伐を実施しつつ広葉樹の生育も促進しながら複層林化を図り、より災害に強い林分に誘導する必要があります。

このため工事や森林整備に際し、下流域の地元住民の理解を得ながら進めることとし、法面緑化・アスファルト舗装等による土砂の流出を抑えた工法や間伐について、現地視察などを実施してきました。

当日は雨降りの中でしたが、参加者全員でシラカバの記念植樹を行い、終了後は地元公民館で工事内容や森林整備、今年度以降の間伐と林道整備の必要性、さらには隣接民有林との連携等について意見交換を行いました。

参加者からは「開設の努力に敬意を表したい」「林道は入口と出口が一緒ではなく幹線的な林道が望ましい」「林道延長により民有林の間伐も進む」など、活発な意見・要望が出され、意義深い現地視察となりました。

今後とも地元関係者との意見交換に努め、地域に密着した森林整備に取り組むこととしています。

「親子の森林体験教室」を開催

【指導普及課】六月五日（土）、長野市及び近隣市町村の小・中学生の親子を対象に、職場見学や林業体験等を通じ、自然の素晴らしさや森林の働きや役割について、親子が一緒になって学んでいただくとともに、国有林野事業の様々な取組をPRすることを目的とした「親子の森林体験教室」を、長野市の北信木材流通加工センター及び戸隠高原において開催し、八組、二十三名の親子・家族が参加しました。

北信署管内の国有林材を扱っている長野市の北信木材流通加工センターでは、参加者全員が協力しミニチュアハウスづくりに挑戦しました。

今回使用したミニチュアハウスは、一般住宅と同じ方法で設計され、プレカット加工した本格的なもので、大人と子供達が各工程を分担しながら、家を建てるための作業を体験し、立派なミニチュア



戸隠国有林にて植付作業を体験した親子の皆さん

ハウスを完成させました。

戸隠高原では、スッキリと晴れわたった青空のもと、戸隠森林植物園内を散策しながら家族揃って昼食をとり、その後、会場を戸隠国有林に移して、植付作業を体験しました。

「小鳥たちの住む森に、実のなる木を植えよう」を合言葉に、親子・家族で力を合わせ、ナナカマドの苗木、約五十本を植栽しました。

作業前に参加者の皆さんに伺ったところ、多くの方から「鋏を使ったことがない」「植付作業が初めて」といった声が聞かれましたが、悪戦苦闘しながらも親子・家族が力を合わせ、普段経験できない貴重な体験をしていただくことができました。ではないでしょうか。

よみがえれ！高山植物

【南信署】五月二十二日（土）、南北八ヶ岳保護管理運営協議会（会長 茅野市長）は、北八ヶ岳の麦草峠において鹿よけネットの設置作業を実施しました。作業には、同協議会関係者、県内外のボランティア、森林管理署（東信署、南信署）等、二十二名が参加しました。

この事業は、林野庁による野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備モデル事業として、昨年十月より開始されたものです。

麦草峠（標高二千二百二十七メートル）は、以前までヤナギランなど貴重な植物が生息していましたが、鹿の食害によりその姿は年々見られなくなりました。そこで昨年、高山植物と野生鳥獣との共存に向け、麦草峠の草原周囲七百二十メートルに鹿よけネットを二回の高さまで張り上げ、今年が二年目の作業となりました。

また、協議会では、信州大学農学部に八ヶ岳におけるニホンジカ食害の実態調査と高山植物の緊急保護に関する調査を委託し、鹿の行動範囲やパターンを追跡する中で、有効的で動物にとっても低ストレスである植物の防護方法の研究などの取組も行っています。

麦草峠の草原で山小屋を経営する麦草ヒュッテ周辺では、ヤナギランの復元の兆しが見受けられ開花が期待されるな



元島指導官の報告を聞く登山者

【南信署】八ヶ岳の開山を翌日に控えた五月二十九日(土)の夜、硫黄岳山荘において登山者等に対して、当署主催による勉強会を行いました。

勉強会では、中部森林管理局指導普及課の元島生態系管理指導官から、このほど取りまとめられた「八ヶ岳の高山帯におけるシカ被害調査報告書」をもとに、

登山者へシカ食害の現状を説明

ど、入山者からもこの事業の継続が望まれています。



鹿よけのネットを設置する参加者

ニホンジカ食害による植生への被害状況等の説明を行いました。

当日は、夏山シーズンの開幕を楽しみに山小屋に宿泊していた百八十名もの登山者が八ヶ岳におけるシカ被害の現状を真剣な表情で聞き入っていました。中でも、横岳の山頂直下にも本来生息していなかったシカの侵入が見られ、希少種のツクモグサの他ウルップソウ、コマクサなどにも食害が及んでいるという報告には会場でどよめきが起こるなどシカ被害の深刻さを感じ入っている様子でした。

昨年、設立された南北八ヶ岳保護管理運営協議会では、これらの被害状況等を踏まえ、緊急的に高山植物を保護するため被害の著しい台座の頭(横岳・硫黄岳)にシカ除け柵を設置する計画をたてています。

関係者間ではシカ食害の現状を承知し、様々な取組が実施されているところですが、まだまだ一般の方々の認識は低く、改めて啓発が必要であると感じさせられました。

「宮の大イチイ」

周辺整備完成式を開催
高山市一之宮町宮国有林

【飛騨署】当署管内の大イチイは、富山湾へ流れる宮・庄川の最源流部に位置する天然ヒノキの遺伝資源保存林内にあり、これまでも地元の小中学校の森林教室等に活用してきましたが、歩道や階段



完成した展望デッキから大イチイを見学

がぬかるんで滑りやすい。保護柵から遠くで見づらい等の声がありました。これを受け、昨年度にレクリエーション施設の整備として、大イチイ周辺に木道や階段を新設し、大イチイをより間近で見学できるように展望デッキも二箇所を設置しました。そして去る六月四日(金)、地元の宮小学校六年生による大イチイ散策が完成後初めての行事であることから、高山市一之宮支所との共同による完成式典を開催しました。

当日は天候にも恵まれ清々しい新緑の下、高山市議会議員や地元のNPO等の参加者が見守る中、宮小学校の児童によるテープカットを実施しました。子供たちからは「歩きやすく整備してもらってありがとうございます。大イチイをはじめ、森林についての学習をこれからも頑張ります。」といった嬉しいメッセージのほか、展望デッキへ登って間近で大イチイを見上げると、「思ったよりでっかい!」「すごいね」と次々に声があがり、イチイの歴史や生態の説明を受ける、興味深げに聞き入っていました。

なるほど生物多様性・

COP10まであと半年
記念フェスティバル

【名古屋事務所】「国際生物多様性の日」の五月二十二日(土)～二十三日(日)に生物多様性条約第十回締約国会議支援実行委員会の主催で「なるほど生物多様性・COP10まであと半年」記念フェスティバルが名古屋市のオアシス21でトークショー、子供ステージやミニコンサートなど多彩な催しが行われ、中部森林管理局としてブース展示を行い緑の大切さをPRしました。

ブース出展団体は農林水産省林野庁中部森林管理局をはじめとした中部地方の行政機関、企業、NPOが二十団体出展し、各団体それぞれの活動状況や生物多様性に関するパネル展示や体験コーナーなど思考をこらした展示で各ブースとも連日大勢の人で賑わいました。

中でも、中部森林管理局のブースでは、サクラの小枝で作るストラップ(通



中部森林管理局のブース

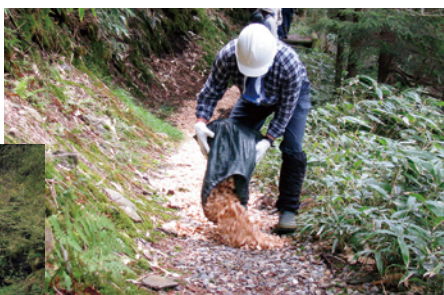
称モックン)が大人気で、連日大勢の家族連れで賑わいました。

名古屋シテイフォレスト事業 ―御岳遊歩道への木質チップの敷設―

【岐阜署】夏を目前にして新緑が一層深まる中、「第五回名古屋シテイフォレスト事業」を下呂市小坂町の落合国有林にて六月九日(水)に開催しました。

前日まで曇り空が続き天気が心配されましたが、当日は一転して快晴となり絶好の作業日和となりました。

遊歩道入口にて袋詰めした木質チップを順番に敷き詰めていくという作業でしたが、隊員の予想以上の作業進行



作業の様子



隊員の皆さん

により予定していた時間より早く終了し、その後の作業を森林探索に切り替えて澆めぐりを行いました。

今回案内した「仙人滝」、「材木滝」は小坂の澆めぐりコースにも指定されており、その清々しい光景に隊員からは「水や空気がきれい」、「貴重な場所を訪れることができて良かった」といった感想が聞かれるなど好評でした。

今回の作業地には日本一標高の高い温泉地をうたう「濁河温泉」があり、参加された隊員は疲れを癒すべく温泉を満喫し帰路につきました。

シリーズ 現場最前線

中央アルプス駒ヶ岳とともに

南信森林管理署駒ヶ根森林事務所

駒ヶ根森林事務所は、天竜川西側の黒川、赤穂、中田切、飯島、上片桐、大島山国有林東側に四徳国有林の約一万一千畝を管理しています。

また、管内には木曾駒ヶ岳を主峰とする中央アルプスがあり、花崗岩の白さとハイマツの緑につつまれた千畳敷カールや高山植物の花畑など美しい景観を求め、年間を通して多くの登山者やハイカーが訪れています。

現場班は、境界巡検などの森林保全管理業務を中心に事業を実行しており、夏



高山植物の保護活動(グリーンロープの点検補修)

山の最盛期にはGSS等と連携しながら高山植物の保護・啓発活動も実施しています。

現場作業に当たっては、毎朝、森林事務所において森林官とその日の天候や作業内容に応じた作業段取りや安全作業の確認等のミーティングを行い、基本動作の遵守、不安全行動の排除等を念頭に、必要な作業を正しい手順での実行を心掛けています。

これから事業の最盛期を迎えるわけですが、南信森林管理署として地元住民等に、良い仕事をやっているといわれる目に見える形での事業を進めていきたいと思えます。

行事・会議等の予定

◎国家安全週間

7月1～7日

◎国観協総会

7月1日 長野市

◎平成23年度民有林直轄治山事業ヒアリング

7月7～23日 中部森林管理局

◎高植協総会

7月9日 中部森林管理局

◎名古屋シテイ・フォレスト事業

7月10・23・29日

富山・飛騨・東濃署管内

お悔やみ申し上げます



故 高見公一氏

企画調整室監査官(名古屋事務所副所長)

農林水産技官 高見公一氏(五十三歳)は五月二十四日に、ご逝去されました。

高見氏は、昭和五十年名古屋営林局 庄川営林署に採用以来、小坂署、久々野署、付知署、飛騨署、北信署に勤務。また、本局においては、総務部専門官、企画調整室監査官(名古屋事務所副所長)として総務関係業務において活躍されてきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



癒しの伝統文化「布橋灌頂会」
 (ぬのばしかんじょうえ) (立山)

「富山署」神々しい霊山・立山は、江戸時代、山中に地獄と浄土があり、あの世の世界と考えられていました。男性はあの世である立山に立ち入ることで擬似的に死者となり地獄の責め苦に見立てられた厳しい禪定登山を行うことで罪や穢れを滅ぼし下山します。こうして新たな人格・生命を再生し、現世の安穏や死後の浄土往生が約束されたいわれています。

しかし、当時の立山は女人禁制の場所でした。そこで、立山の入口にある立山町声峠寺(あしくらじ)では、男性の禪定登山と同義の儀礼として、女人救済のために閻魔堂・布橋において、女性の浄土往生を願って「布橋灌頂会」の法会が行われるようになりました。

この法会に参集した女性参詣者は、閻魔堂で懺悔の儀式を受けたあと、この世とあの世をつなぐ朱塗りの布橋を白装束に目隠しをした姿で僧侶に導かれながら白い布の

上を渡り、「死後の世界」に赴きます。布橋を渡ると、立山山中に見立てられたうば堂(現在の遙望館)の中に導かれ、そこで目隠しを解くと暗闇の中です。やがて室内の覆いが上がると、目に射し込む光の先に、立山につながる別世界を目前に体験することができたそうです。

このような儀式は、明治の廃仏棄釈による影響で廃止されましたが、平成八年に立山町主催による復元イベントが開催されました。以来、平成十七年、十八年、二十一年と開催され、昨年は、県内をはじめ京都、大阪などから七十名を超える女性に参加し、また三千名もの観光客が訪れています。(開催日等の問い合わせは立山町商工観光課まで)

◆アクセス

立山ICから車で 布橋 県道六号線

(立山街道) 約三十分



称名滝(落差350m)



布橋灌頂会



まんだら遊苑
 (餓鬼の針山から見た精霊橋)

【周辺散策】

立山博物館(まんだら遊苑、遙望館)から少し足を延ばせば、「称名滝」日本一の落差を誇る名瀑布(ブナ坂国有林) また、富山地方鉄道「立山駅」からは美女平、室堂方面(ブナ坂国有林)へ行けます。



遙望館ホールから望む立山連峰